

2006年度 早稲田大学 政治経済学部

日本史 解答

I 和氣清麻呂・加賀の一向一揆 <やや易>

A 1 ①オ ②ウ 2エ 3イ 4エ 5ア 6オ 7ウ 8イ・エ

B 1平安京 2富樫政親 3蓮如

A 5は難問。六角氏は、なぜか今年の早稲田入試では複数の学部で問われている。その意味を考えると入試への対策が見えてくる。他は非常に簡単な問題であった。

II 近世のキリスト教と外交・経世秘策 <標準>

A 1ウ 2エ 3オ 4ア 5エ 6オ 7イ 8エ 9ア

B 10織田信長 11醍醐寺 12定高仕法

A 4はやや難しいが、江戸時代の文化史分野の人物は意外とその時期が問われる。単に寛永期の文化、元禄文化、化政文化の区切りだけではなく、誰の弟子だったか、弟子に誰がいるか、誰に仕えたか、著書を誰に提出したかなど、時期を考えるためのヒントはたくさん存在する。あとはポイントをつかんで学習できているかどうかである。中井竹山が『草茅危言』を松平定信に提出したことは、意外と出題されており、早稲田政経でも1998年に出されていた。今回はそこから考えるべきであった。

B 11は難問。A 8もやや難。

III 立憲国家 <やや難>

A 1オ 2ア 3イ 4エ 5ウ 6ア 7ア 8オ

B 1民撰議院 2国会期成同盟 3国会開設の勅諭

A 3・4・8は考えて解かせる問題でやや難しい。A 5は難問。史料(1)(3)に関する問題は即答できるので、史料(2)のみを丁寧に読解する。

IV 近代の社会運動 <やや難>

A 1ホ 2イ 3ホ 4ロ 5イ 6ニ 7ニ 8イ 9ホ

B 1治安警察法 2日本社会主義同盟 3大杉栄

A 5・B 3は考えればなんとか解ける。A 6・7は難問。A 6に関しては、ホ(サンジカリスト)ではないかという他の講師からの意見もあったが、原典ではニ(アナキスト)であった。ちなみに原典の題名は、設問に書かれている『日本社会運動史』ではなく、正確には『日本社会主義運動史』であった。こういうところで誤記はしてほしくないものである。

V サンフランシスコ平和条約・新安保条約 <やや難>

A 1ハ 2イ 3ニ

B 岸信介内閣は、日教組の押さえ込みをはかって教員の勤務評定を実施したが、治安強化をめざす警職法改正は革新陣営の反対によって断念した。また、防衛力整備計画を決定して防衛力を増強し、「日米新時代」を唱えて日米相互協力及び安全保障条約を締結したが、安保闘争が激化し条約成立後に総辞職した。(140字)

A 3は消去法で十分解ける。Bの論述問題は、またもや戦後の1つの内閣を述べさせるものだった。このパターンが次も続くとはかぎらないので注意したい。

講評

昨年の同学部の問題が簡単だった反動で、近現代の範囲からの出題が難化した。教科書による学習ではまず解けない問題が数多く見られる。過去問を20年分くらい解いて傾向をつかんでいた人には、「ああ、またこのテーマか」と言えることもあっただろうが、どうだっただろう。大問Ⅱの「定高仕法」なども笑って解ける必要がある。